

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：37113

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03390

研究課題名(和文) 西洋統計思想史におけるソヴィエト国家統計

研究課題名(英文) Soviet State Statistics as Successor of Western Statistical Thoughts

研究代表者

山口 秋義 (YAMAGUCHI, AKIYOSHI)

九州国際大学・現代ビジネス学部・教授

研究者番号：80269026

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：初期ソヴィエト政権によって設置された集中型統計組織は計画経済の必要条件であったというのが通説である。本研究の成果はソヴィエトロシアにおける集中型統計組織の設置をめぐる論議に対し、西欧における統計制度論議が大きな影響を与えたことを解明したことである。その根拠資料としてロシア国立経済公文書館(モスクワ)とロシア国立歴史公文書館(サンクトペテルブルグ)とに保管されている政府統計機関の公文書等を調査し、先行研究と比してより客観的かつ詳細な研究となった。

研究成果の概要(英文)：The Central Statistical Board established in 1918 by Soviet authorities was the first centralized system of official statistics in the world. Controversy surrounding centralized and decentralized systems of official statistics has risen in the middle of 19th century when official statistical organisations in European countries have been formed. The opinion that centralized statistical system in Soviet Russia was established out of necessity for the planned economy is commonly accepted. The achievement of this survey is to have shed light on the European influence on the establishing of statistical organisation in Soviet Russia. This survey is based on documents from Russian State Economic Archives (RGAE) and Russian State Historical Archives (RGIA).

研究分野：経済統計

キーワード：統計制度 統計調査 経済史 経済思想 ロシア

1. 研究開始当初の背景

近年、ロシア統計史のうち初期ソヴィエト期の研究が国際的に進展した。特に1990年代以降ロシアの公文書館へのアクセスが容易となり、歴史公文書を詳細に検討した研究成果が2000年代に入って発表されるようになった。そのうち注目すべき成果は次の3つである。

(a)ひとつはフランス人研究者ブリュームとメスピュレによる『官僚主義的無政府性：スターリン下における統計と権力』（Alain Blum et Martine Mespoulet, *L'anarchie Bureaucratique : Statistique et pouvoir sous Staline*. Paris, La Découverte, 2003. ISBN2-7071-3903-3, -372p.

「 」、2008. (ISBN978-5-8243-1011-5, -328c.)である。この研究はロシアの政府統計家に対する弾圧の経緯に主に焦点を当てたものである。

(b)ふたつめはロシア人研究者トロポフによる『情報の国有化：革命後ロシアにおける政治権力と中央統計局』（

「 」、2007. ISBN978-5-8088-0259-9, -171c.)である。この研究は国家統計組織をソヴィエト国家機構においてどのような位置づけを与えるかをめぐって繰り広げられた旧ゼムストヴォ統計家とソヴィエト政権との駆け引きに焦点を当てたものである。

(c)そして三つ目が前述のエリセーエワ、ドミトリエフ共著『ロシア国家統計通史』サンクトペテルブルグ、ロストク社、2016年（

「 」、2016.)である。この研究の特徴は、統計調査の単一機関への集中と統計組織の独立性との2つをロシア統計史研究の基軸となるべき視点として示したことである。集中型統計組織を目指した論議が帝政時代から経済体制の違いを超えて検討されてきた経緯が明らかにされている。

1918年に誕生まもないソヴィエト政権によって設置された中央統計局は世界初の集中型統計組織であった。集中型統計組織は社会主義計画経済の必要条件として設置され、国家統計制度に関するレーニンのイデオロギイが実現されたというのがロシア人研究者を中心とした通説であった。しかしソヴィエト政

権下の新しい統計制度設立において19世紀半ば以降西ヨーロッパ諸国の政府統計制度論議はどのような影響を与えたかという従来の研究が注目してこなかった歴史的側面を解明しようとした。

2. 研究の目的

西欧における論議が初期ソヴィエトロシアの集中型統計制度の採用に対しどのような影響を与えたかを探ることである。なかでもケトレーの提唱によって1853年から開始された万国統計会議における公的統計制度をめぐる論議とソヴィエト政権下の統計制度論議との紐帯を確認することである。

3. 研究の方法

ロシア国立経済公文書館（モスクワ）とロシア国立歴史公文書館（サンクトペテルブルグ）に保管されている政府統計機関（中央統計局と内務省中央統計委員会）の公文書のうち統計制度に関する各種会議議事録など先行研究が利用していない資料を含めて解読し、より詳細かつ客観的な研究を目指した。

4. 研究成果

本研究によって次の点が明らかとなった。

(1) 西欧における論議がロシアの集中型統計制度の採用に対し大きな影響を与えたことである。なかでも1867年万国統計会議フローレンス大会におけるイタリア上院議員チェザーレ・コレンティ(Cesare Correnti)報告と各国政府への勧告決議が、初期ソヴィエト政権における論議でしばしば言及されていることを議事録等において確認し、フローレンス大会に提出されたCorrenti報告要旨もあわせて確認し、西欧における統計制度論議とソヴィエト政権下の統計制度論議との紐帯を確認することができた。帝政期において3度にわたり(1907、1910、1916年)中央統計局構想を主軸とした統計制度改革法案が国会へ提出され、これに関連する大量の公文書が現在も保管されていることが判明した。これらの改革案はのちのソヴィエト国家統計を準備したものである重要な内容を持っている。

西洋統計思想史においてソヴィエト国家統計を位置付ける研究において、帝政期ロシアにおける3度の統計改革の試みを研究することを計画している。これら国会へ提出された中央統計局構想を主軸とする統計制度改革法案とこれに関連する公文書を解読し、それぞれの改革案に万国統計会議を中心とした西欧における政府統計制度をめぐる論議がどのように反映したかをあきらかにしたい。

(2) また帝政期において3度にわたり(1907、1910、1916年)中央統計局構想を主軸とした統計制度改革法案が国会へ提出され、これに関連する大量の公文書が現在も保管されていることが明らかとなった。(公文書の番号とタイトルは次のとおりである。ロシア国立歴史公文書館フォンド番号1290、702-301・703-302「ロシア統計行政の再編について」[1907 - 1908]、716 - 314「ロシアにおける統

計機関の再編成に関する資料」[1908 - 1910]、802 - 510「内務省統計官庁の再編成に関する問題の資料」[1912 - 1916]。これらの資料は西欧の統計制度論議の影響下に作成されたものであり、後のソヴィエト統計制度を準備したものであるとして重要な意義を持つ。これらの3法案と関連資料の検討は今後の研究課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

すべて研究代表者による単著である

日本語による業績

(単)(査読なし)山口秋義「初期ソヴィエトロシアにおける公的統計の独立性について」『九州国際大学国際・経済論集』創刊号、2018年3月、pp.149-162。

(単)(査読)山口秋義「書評：イ・イ・エリセーエワ，ア・エル・ドミトリエフ著『ロシア国家統計通史』(サンクトペテルブルグ，ロストク社，2016年)(露語)経済統計学会『統計学』第112号、2017年3月、pp.37-42。

(単)(査読なし)山口秋義「ロシア公文書からみた万国統計会議ブリュッセル大会(1853年)」『九州国際大学経営経済論集』第23巻第1・2合併号、2017年3月、pp.75-86。

(単)(査読なし)山口秋義「ロシア公文書から見た19世紀ヨーロッパ諸国統計制度」『九州国際大学経営経済論集』第22巻第1号、2015年10月、pp.57-69。

ロシア語によるもの

(単)(査読)山口秋義「国家行政と学問研究のための完全で客観的な統計：エリセーエワ，ドミトリエフ共著『ロシア国家統計通史』(2016)の書評」がロシア科学アカデミー学術誌『科学技術の社会学』第8巻第3号、2017年10月、に掲載された。(ロシア語タイトル_____)

載された。(ロシア語タイトル_____)

_____ : _____

_____ . 《 _____ 》 2017 9, .84-88.)

(単)(査読)山口秋義「万国統計会議フローレンス大会とソヴィエトロシアにおける中央統計局の創設」がロシア連邦国家統計局学術誌『統計の諸問題』2016年5月号に掲載された。(ロシア語タイトル：_____)

_____ . 《 _____ 》 2016 5, .86-91.)

引用先

(i)イ・イ・エリセーエワ，ア・エル・ドミトリエフ共著『ロシア国家統計通史』サンクトペテルブルグ，ロストク社，2016年(_____)

_____ . 《 _____ 》 2016.)において引用され、集中型統計組織の創設が西欧における統計論議の継承の上になされたという私の見解が継承されている。

[学会発表](計 0 件)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

2016.

《 _____ 》 2017, 8, 3, . 130-135.)

(単)(査読)山口秋義「見送られた会議：第1回万国統計会議のロシア国家統計形成への影響」がロシア連邦国家統計局学術誌『統計の諸問題』2017年9月号に掲載された。

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口 秋義 (YAMAGUCHI Akiyoshi)
九州国際大学・現代ビジネス学部・教授
研究者番号：80269026

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

エリセーエワ、イリーナ (ELISEEVA Irina)
国立サンクトペテルブルグ経済大学・統計学
計量経済学講座主任教授、ロシア統計学会会
長、ロシア科学アカデミー準会員